

MicRoad

ORIGINALITY OPEN THE WAY

ATSUGI MICRO Company Newsletter

2026

Autumn/Winter

vol.4

ATSUGI
MICRO CO., LTD.



これからの20年に向けた飛躍と変革 継承される技術と思い

仕事への向き合い方や仲間を思う気持ち、挑戦を続ける姿勢。それらは世代を超えて受け継がれ、私たちの原動力となっています。長年培った技術、信頼を大切にしながら、一人ひとりが成長し、新たな価値を生み出していく。私たちは、積み重ねてきた技術と想いを受け継ぎ、その先の20年を見据え、人づくりと組織づくりに取り組んでいます。本号では、「飛躍と継承」をテーマに、未来へ続く厚木ミクロの「今」をご紹介します。

MicRoad(ミクロード)

厚木ミクロのMicro+道のRoadから名付けました。会社と社員をつなぐ道をイメージしています。一人ひとりの社員の活躍や当社の目指す未来をみんなで共有したいという思いを込めています。

🎤 最長勤続社員へのラストインタビュー

45年の経験と想いを次世代へ



ミクログループで45年間働いてきたTさんが、最終出社日を迎えました。製造、企画開発、生産管理など、会社の歩みとともにさまざまな仕事に携わってきたTさんに、これまでを振り返ってもらいました。長い仕事人生から見てきたのは、ミクロが大切にしてきた「創意自拓道」の精神と、仕事や人に向き合うTさんならではの姿勢です。

——45年を振り返っていかがでしたか

本当に何でもやりましたね(笑)。今は生産管理にいますが、以前はインテリアガラスの製造販売やグループ会社の立ち上げにも携わり、企画開発では、お客様との打ち合わせから材料の発注、図面引き、加工、納品までを一貫して担当しました。ガラスのカットや研磨、回転機の自作、形状記憶合金やベリクル、タッチパネル、カラーフィルターなど、仕事の領域は多岐にわたりました。当時は新しい仕事が来ればとにかく挑戦するという感じで、大変なことも多かったですが、その分色々

な経験をさせてもらいました。

——そうした経験の中で、大切にしてきたことは何でしょう

仕事で大切にしてきたのは誠意です。開発がうまくいかない時でも、お客様に対して「ここまでやっています」という誠意をきちんと見せることが大切だと教わりました。今でも、みんなが仕事をしやすいように誠意を持って準備するという気持ちは変わりません。

例えば梱包ひとつでも、丁寧にやればお客様に伝わるんです。実際に「梱包がきれいだった」と、わざわざお礼の連絡をいただくこともありました。

——後輩たちに、受け継いでほしいことはありますか

最近のYくん(製造部長)を見ていても思いますが、彼はどこでも顔を出すというか、何にでも手を出すというか、やっぱり心が優しい。誰にでも声をかけたり、困っていたら手伝ったり、気遣ったり。あの姿勢は、

みんなも習ってほしいなと思います。製品や現場、仲間やお客様を思う気持ちを忘れないでほしいですね。

——ミクロは、Tさんにとってどんな会社でしたか

僕自身、45年を振



り返って一番良かったと思うのは、この会社で妻と出会って、結婚し、子どもが成人したことです。ミクロに入ってから後半の人生は、この会社がなかったら存在しなかったかもしれない。それは僕にとって、本当に大事な出来事だったと思っています。

——最後に、これからの厚木ミクロへ

この業界はたくさんの波があります。でも、ミクロには「創意自拓道」という精神がある。その気持ちを大切にしながら、これからもますます発展していったほしいと思っています。

◇ ◇ ◇

自分の仕事だけではなく、次に仕事をする人、その先にいるお客様まで考える。Tさんが45年間、大切にしてきた仕事への姿勢です。

長きにわたりミクロの歴史を支え、技術や経験だけでなく、仕事への向き合い方やものづくりへの思いも私たちに受け継いでくれました。45年間、本当にありがとうございました。



最終日には卒業証書(寄せ書き)とお花、記念品が贈られました

やりがいを持って働ける会社へ

～未来をつくる管理職研修～

厚木ミクロでは、会社の未来を誰か一人に託すのではなく、次世代を担うメンバーがともに学び、支え合える基盤をつくるため、管理職を対象に研修を行っています。

きっかけは、上田社長自身の経験



です。当初、「次の社長」と言われた時は正直抵抗感があったそう。自身もさまざまな立場で経営を学んできたからこそ、次世代に十分な準備と学びの機会をつくりたいと考え、部長層を対象とした管理職研修を始めました。

目指すのは、誰か一人を後継者として育てるのではなく、経営を担うメンバー全員が財務や経営に必要な知識を身につけ、誰がリーダーになっても互いに支え合える組織をつくることです。現在、進行中の研修では、最終課題として「5年後、10年後、どんな会社になりたいか」を自分たちで



描きます。

また、上田社長が次の世代にも大切にしてほしいと考えるのが「開かれた会社」です。就任後、机の配置を変え、社長室の壁をなくすなど、上下関係にとられず相談しやすい雰囲気づくりを進めてきました。新しく入った社員からも「親しみやすい」「雰囲気がいい」という声が寄せられています。

「厚木ミクロらしさ」も継承できる次世代の経営者になってもらいたい。知識だけでなく、社員を思う姿勢も次の世代へ。上田社長が進める経営継承には、そんな未来への思いが込められています。

受講した管理職の声

「財務諸表だけでは分かりにくいことも、実際の当社の数字をブロック図に組み込みながら学ぶことで、お金の流れや資金の運用状況がとても分かりやすくなりました。当社の加工によって、いかに製品へ付加価値をつけ、大きな利益を生み出すか。業務や投資についても研修での学びを踏まえて考えていきたいです」

支援制度

資格取得支援制度

～学びと挑戦を会社がサポート～

社員一人ひとりの成長を支援するため、資格取得支援制度を設けています。業務に必要な資格や講習について、受講料・受験料の負担や勤務スケジュールの調整などを行い、スキルアップを後押ししています。

新卒社員がフォークリフト技能講習を受講！

4月に入社した新卒社員のWさん

は、本制度を利用してフォークリフト技能講習を受講。学科・実技講習を修了し、現在は実際の業務でフォークリフトを活用しています。

厚木ミクロでは、こうした挑戦を安心して続けられるよう、周囲で支える風土を大切にしています。これから



も、一人ひとりの「やってみたい」という気持ちに寄り添い、成長を応援していきます！

受講した社員の声

「最初は少し不安もありましたが、実際にやってみると操作にも慣れ、思っていたよりスムーズに進めることができました。受講料を会社が負担してくれたことや、勤務時間内に受講できるよう調整してもらえたこともありがたかったです。」

受講後は、毎日フォークリフトに乗る機会があり、実際の業務でも活かしている実感があります。できることが増えたことで、自信にもつながっています」

社内試験

スキルアップ制度で、さらなる成長へ

～自分次第でスキルも給与もWアップ! の新評価制度～

今期より、社員のキャリア形成とモチベーション向上を目的に、スキルアップ制度が始まりました。管理職の席が限られる中、優秀な人材のステップアップやモチベーションアップにつなげたいという考えから導入したものです。

本制度では、所定の条件を満たすと、4段階に設定された試験に順次挑戦でき、合格するとスキル認定されるとともに給与にも反映されます。今期は10名が対象となり、そのうち3名が受験しました。

制度の立ち上げについてI部長にインタビューしました

Q制度を通じてどのように成長してほしいですか

A少しずつでも確実に成長が見られれば良いと思っています。そのために、例えば、問題や課題などのイレギュラーに対して積極的に取り組み、改善の効果を自身で実感できるように成長をしてもらいたいです。あえ

て言うなら成長に必要なことを自分自身で考え実行してほしいと考えています。

Q今後の発展は

Aまずは、内容についてはトライ&エラーで続けていくことになると思います。その中で重要なポイントとそうでないポイントを見極めながら発展させたいです。

Q開始にあたっての思いを教えてください

A本当に不安ばかりでしたが、できるだけ個々のスキルに見合った出題内

容を考え、何とか実施できたことに今はほっとしています。また、実施していく中で仕組み自体も見直しながらより良い形にして5年、10年と続けていけるように努めたいです。

受験した社員の声

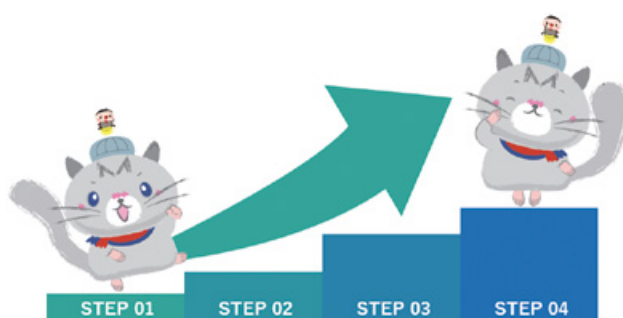
「受験の目的としては、まず、自分の知識がどこまで身についているかを知りたかったということが大きかったです。」

ただ、初回の試験だったため過去問題がなく、勉強方法がわからず不安のまま臨みました。認識不足も痛感しましたが、会社の求めている知識、スキルはどういうものなのか出題を通して知ることができました。

給与のアップは、モチベーションがとても向上しました。また、次の段階に進んでいけるように各業務を再度注視しながら勤務していきたいと思っています」



取得したスキルは名刺に記載されます



長岡事業所設立15周年記念式典レポート

今回、グループ会社であるマイクロ技術研究所 長岡事業所の設立15周年記念式典に参加しました。長岡事業所は2011年7月16日に竣工、今年で設立15周年となりました。式典には厚木マイクロからも22名の社員が出席、総勢242名の参加者でした。



今回は、私が当日の様子をレポートします

いざ記念式典へ!

当日は式典ということで、いつもとは少し違う服装で朝8時に東京駅へ集合。参加者22名で新幹線に乗り、長岡へ向かいました。

入社以来、初めての記念式典。到着後の集合写真では、ちょっと緊張しながら撮影に参加しました。その後、

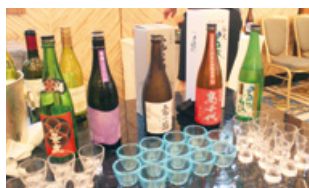
式典会場へ移動。開会宣言に続き、マイクロ技術研究所・吉川社長のごあいさつ、厚木マイクロ・上田社長の乾杯で華やかなパーティーがスタートしました。

上田社長は長岡事業所の設立メンバーの一人。設立に携わった皆さんが次々と壇上に上がり、当時の思いや夢を語る姿から、長岡事業所がどのように誕生したのかを知ることができました。会社の歴史を身近に感じられる貴重な時間でした。



会場にはおいしい料理や新潟の地酒がずらり。中でも八色西瓜^{やいろすいか}はとっても甘くて、写真を撮り忘れてしまうほど!

ビンゴ大会も大いに盛り上がり、厚木マイクロだけでなく、他のグループ会社の皆さんとも交流できました。最後は長岡事業所の若手社員の掛け声に合わせ、会場全員で唱和。会場が一つになったところで式典は閉会しました。



夜は長岡まつり大花火大会へ!

その夜は、長岡事業所のご厚意で長岡まつり大花火大会にも参加しました。会場の広さと大勢の見物客にまぎびつくり。マイクロ技術研究所は毎年「天地人花火」に協賛しており、さらに今年は設立15周年を記念して初めて単独で花火を打ち上げました。



(写真提供 株式会社マイクロ技術研究所)

迫力ある花火と音楽がシンクロする演出は、驚きと感動の連続。中でも、中越地震からの復興を願う花火「フェニックス」は圧巻で、思わず言葉を失いました。



さいごに

初めての式典は緊張もありましたが、会社の歴史や皆さんの思いに触れ、グループ会社の方々と交流できた充実の日でした。また一つ、「マイクロ」について知ることができました!

続・厚木マイクロ大改造計画

～制服・3F食堂リニューアル～

2025年10月に制服、今年1月には食堂をリニューアルしました。昨年始動した「厚木マイクロ大改造計画」。社内のさまざまな場所で、引き続き働きやすい環境づくりを進めています。

制服リニューアル

分社化以来初、約20年ぶりに制服を刷新しました。将来のリサイクルや寄付も視野に入れ、社名ロゴはあえて入れていません。「工場の作業着」という従来のイメージを変えようと、夏は涼しげなミストバイオレット、冬は暖かみのあるモカを基調に、明るくおしゃれなデザインにしました。



旧制服



新制服

食堂リニューアル

昼休みの満席を解消するため、カウンターの1人席を増設。座席間にもゆとりを持たせてパーソナルスペースを確保し、落ち着いて休憩できる空間にしました。ナチュラルカラーを基調に「癒やし」を感じられる雰囲気とし、清掃のしやすさにも配慮して什器を軽量化。社員からも「明るくなった」と好評です。



食堂
改装

大改造計画の原点は、上田社長の「昔ながらの閉じた雰囲気を変えたい」という思い。お客様を気持ちよく迎えることはもちろん、働く人にとっても快適な職場づくりを目指しています。

制服や食堂のリニューアルといった環境整備の背景には、日々の積み重ねがあります。「こうした取り組みができるのも、みんなの頑張りがあってこそ。これからも環境整備や設備投資をはじめ、さまざまな形で還元していきたい」と上田社長。社員の声を取り入れながら、厚木マイクロの大改造計画は続いています。



ないモノづくり。一厚木マイクロは、「世の中にまだないものをつくる」開発者集団ですー

これまで長年にわたり会社を支えてくださった方が退職され、寂しさを感じる場面もありましたが、最後にこれまでの歩みや後輩たちへの思いを伺うことができ、改めて当社の歴史とつながりの深さを感じる機会となりました。

今回のMicRoadでは、最長勤続45年を迎えた社員のインタビューをはじめ、社内試験や管理職研修、資格取得支援制度など、一人ひとりの成長と挑戦を支える取り組みもご紹介しています。また、グループ会社の15周年や制服リニューアルなど、新たな一歩を踏み出す話題も取り上げました。

受け継がれてきた技術や思いを大切にしながら、次の世代へとつないでいく。そんな当社の「これまで」と「これから」を感じていただける内容になっていれば幸いです。

